

## ぶどう産地の復興と新たな挑戦

### 「ぶどう」栽培のはじまり

近年、山元町といえば「いちご」のイメージが定着していますが、かつては「ぶどう」栽培が盛んで、東北有数の「ぶどう産地」として知られていました。

明治35年にコンコード種（※）のぶどう栽培が始まり、その後、果実飲料製造に挑戦。当時の技術では天然果汁飲料の製造は大変困難でしたが、難しい製造技術の確立に挑み、大正時代初期に「ぶどう液」を開発し製造販売が開始され、日本の「ぶどう液」発祥の地といわれています。



※コンコード種

コンコードは、アメリカ合衆国原産で、生食のほか、果汁飲料、醸造用として加工される。



# ぶどう産地の復興と新たな挑戦 東日本大震災による被害

「ぶどう」は、砂地でも育ち、塩害に強いという特徴があることから、海沿いに砂地の平野が広がる山元町の地勢に適し、主に沿岸部で栽培されていましたが、平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、想像を遥かに超える巨大津波を引き起こし、ほとんどのぶどう畑が津波で流失しました。

また、主な加工・製造事業者も沿岸部を拠点としていたことから、工場や倉庫、自宅など、生活基盤を含め壊滅的な被害を受けました。



### ぶどう産地の復興と新たな挑戦

## 「ぶどう」産地の再建と新生

未曾有の危機的状況に陥った本町のぶどう産業でしたが、本町を代表する物産である「ぶどう液」などの加工・製造を営んでいた一つの事業者が、営業再開を望む声や、産業振興・復興の一助になればとの思いを胸に、**一念発起し営業を再開**しました。

生活再建と並行しながら、町の特産品を使った新たな果汁飲料の開発や、地場産品の加工・製造の受け皿を目指すとともに、新たに**「生食用ぶどう」**の栽培に挑戦。

試行錯誤しつつ栽培に取り組んだ**「シャインマスカット」**は、平成30年度から**山元町ふるさと納税返礼品ランキング第1位**となり、町の新たな特産品として期待が寄せられています。



## ぶどう産地の復興と新たな挑戦

### 「やまもと夢いちごの郷」で

かつて、「加工用ぶどう」の一大産地であった山元町は、震災後、「生食用ぶどう」の栽培や、品種の多様化が進んでおり、現在は、加工・製造や生産・販売の他、「ぶどう狩り」を楽しめる観光農園も開設され、町内外から多くの方々が訪れるなど、「ぶどう」産地として新たな一歩を踏み出しました。



農水産物直売所「やまもと夢いちごの郷」では、町発祥の「ぶどう液」を通年取り扱う他、様々な品種の、上品かつ爽やかな甘さの摘みたて「ぶどう」を8月下旬～10月頃まで取り扱いますので、是非ご賞味ください。

